（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3370301164		
法人名	和楽路　有限会社		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ　さくらんぼ		
所在地	岡山県津山市日上1468－1		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人　高齢者・障害者生活支援センター
所在地	岡山市北区津高628-1
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な温かさと愛を持って信頼を築くをモットーに、ご家族・利用者・関係医療機関及び掛かりつけ医との信頼関係を築けるよう心掛けている。利用者の尊厳と生活を支援し、個々の生活スタイル維持した日常生活を提供できる環境作り目指しており、入居者一人一人の得意な事や趣味などを取り入れ、能力や経験を尊重できるよう取り組んでいる。
又、家庭的な温かさでスタッフ一同が情報の共有や連携をし、熱意を持って取り組める事を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域との交流を深めようと施設長をはじめ職員全員が地域の催し等に積極的に参加しています。
入居者の権利を守り思いを実現するために、職員の気持と持てる力を十二分に発揮できる様に働きやすい就業環境を確立しており、長く勤める職員が多くいます。看護師が隔日勤務しており協力医療機関の中に365日24時間対応してもらえ緊急入院も可能な病院があります。開所から10年が経ち入居者は複数の疾患を抱えていますが医療機関のしっかりしたバックアップもありこれらの取り組みがレベルの高い支援に繋がっています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な温かさと愛を持って、信頼を築く」を事業所の理念とし、利用者様及びご家族様、ならびに地域の方々や外部の方々に、信頼されるサービスや関わり方を実践できるよう、日々邁進し、年間目標を職員全員で立て、振り返りをして、より良いサービスを提供できるよう努めている。	地域の方に理解してもらい協同して行くために町内の催しには積極的に施設長をはじめ職員が参加しています。毎年職員全員で事業所の年間目標を立て年度末には各々が振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には、事業所の代表者が全ての行事へ積極的に参加し、又、地域の行事への招待を受けて積極的に参加し理解を深め、随時行なっている利用者様の散歩時には、コミュニケーションを図れるように心掛けている。	事業所並びに施設長は町内会に属しており、町内会に出席して地域の一員である事を認識してもらえるように関わりを持っています。地域のこども神輿が毎年事業所に来てくれるので入居者は楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の行事等に利用者様との参加で、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑがどのような事業所か知っていただくように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進委員の方々に、当事業所での行事報告や行事予定等をお伝えしている。又、個人情報に則って、利用者の方々に行なわさせて頂いているサービスの現状報告をし、意見等をお聴きしている。	町内会長、愛育員、民生委員、元青壮年部部長、市の高齢介護課の担当者、入居者が出席しています。町内の行事に入居者が参加してもらえるように誘って貰い、町内の運動会に入居者と一緒に参加しています。	地域の催しに参加して繋がりを作る努力が窺えます。当事業所が地域に向けて講習会や地域が求めることを発信して行き運営推進会議で地域と協同して進めて行く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、市が行う研修会や講習会へ積極的に参加し、その都度相談等を行なっている。又、気になれば問い合わせをし、説明等を聞かせていただいている。	職員の入れ替わりも報告しており常に事業所の状態を理解してもらっています。書類の件で質問すると親切に対応してくれます。また担当者が変更した時は事あるごとに出向くか電話を掛けて関係を作っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では、スタッフの連携を取り、全て戸等に鍵をしないサービスを行なっている。	入居者が自由に過せる様に職員は五感を働かせユニット同士協力しており、ユニット間の情報交換のため体操を一緒に行っています。働き易い職場環境を整える事により職員がストレスを抱えない様に配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市等が行なっている高齢者虐待防止の勉強会等に積極的に参加をしている。 又、スタッフ間での連携で声掛けをし、利用者へのサービスを行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不定期ではあるが、少ｸﾞﾙｰﾌﾟで勉強が出来る場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改訂等時には、事前に身元引受人の方々へ、ご連絡・お手紙等で説明等をした上で執り行い、疑問等がある方々へは、ご理解をいただいた上で、行っている。又、ご家族様方々は不安を覚えられないよう、変化・要望時には連絡をとり説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族様には、ご要望・意向等をは常に聞くようにし、又、訪問時や電話連絡時等でお聞きし、外部との相互関係の観点で対応し、事故につながらない範囲内で積極的に行なっていただけるようにしている。	家族とよく連絡を取っています。面会に来た時はゆっくりと話をする時間を取り電話連絡も小まめに取っています。そのため家族と馴染みの関係が出来ており気づいた事や疑問要望をその都度聞き取り改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や、申し送りノート・各ユニットの申し送りノートを使用、随時意見交換をし、職員の意向や意見を盛り込んだ事を他の関係機関と相談しながら実行し、職員へ報告・相談をしている。	職員と施設長で会議を行っています。休みの事で社会保険労務士に会議に参加してもらい話し合い職員全員で決めました。事業所の運営状況も会議で話し合い職員全員で運営に携わっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の職員会議や、随時意見交換をし、職員の意向を盛り込んだ事等を実行している。 又、代表者は個々の職員と面接を行ない、意見等を反映できるように執り行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修・講習等に、職員諸事情等での出席できる範囲内で、参加促しているよう、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と同業者として関係を持つようにし、各事業所の諸事情のない範囲及び日程調整が取れる範囲で交流を図っっていけるよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い傾聴しながら、利用者個人のペースに合わせて信頼関係を作り、利用者の思いを知るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の方々へ家族の面会時及び訪問時に事前面接をし、家庭の事情により訪問しづらいご家族へは、ケアプラン返送時等に要望欄を作成し意向を反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアカンファレンス時に、ご家族及びご利用者の意向を検討反映するよう実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員同士間での声掛け行ないながら、ご利用者様の声掛け・介助・介護等の対応して気をつけながら注意し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	思いを汲み取って対応し、ご利用者及びご家族の意向に添うように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前までの生活環境が維持できるよう事業として、家族の方と相談しながら対応できるように努めている。	年賀状を出したり手紙を書いたり電話を掛けたり、入居者・家族の思いを大切にしながら支援に努めています。ピアノ演奏のボランティア等ボランティアに来てくれる方々と馴染みの関係が出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の方々が安心できるよう、家庭的な空間の場を提供できるような環境作りに心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所としての方針は、連絡体制を取れ相談援助をさせていただけるよう、契約修了時に説明している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスでの検討項目結果をまとめ、アセスメントに反映させケアプランを立案し、支援を行っている。	毎日の生活の中で「していること」「話すこと」「出来ること」を一緒に行うことで入居者一人ひとりの力が見えてきます。それらの事を小さなことでも家族に伝え今までの生活の中から情報を貰い支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート等を利用することで把握し、一人ひとりのケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は、各記録やチェック表を各職員が把握し、その都度必要なサービスを提供できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス時に、家族が訪問された時の要望項目や本人の意向やケアプランの要望欄の要望を、検討項目として上げ介護計画に反映するよう努めている。	サービス担当者会議の用紙を家族に送り要望欄に家族の要望等を書いて貰い計画に反映させています。家族と関わることにより意見もよく頂けると同時に家族との連絡も取りやすくなっており現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録やチェック表を用い、又ユニット間及び全体の申し送りノートを利用する事で、情報を共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に沿ってサービスを提供するが、日々の状況の変化に対応するよう、ケアプランにとらわれないその時々のニーズに対応し、支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源でもある、地域の恒例行事に積極的参加させていただき、訪問させてしていただけるよう関係を作り、利用者の方々に楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人希望及び家族希望の掛かりつけ医で対応し、施設からの情報を提供し、Drとの連絡体制を整えているため、必要時に指示を受け対応している。	月2回の往診がありほとんどの入居者が往診を利用しています。協力病院が365日24時間対応してくれ緊急入院も可能です。受診の際待ち時間が長くならないように順番が近づくと連絡してくれます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されていないため、医療連携加算をとっていないため、掛かりつけ医に連絡及び報告し、相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、当事業所での経過報告の添書の提供し、又、主治医への問い合わせを行ない、現状確認を行ない、入院された利用者へ定期的に訪問し、担当看護師から情報を提供していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様のADLの低下に伴った生活での介護および介助の現状をケア・カンファレンス等で話し合い、その旨を事前に家族の方に事業所の方針を報告させていただき、又、主治医からの医療的観点からの説明も含めた話し合いを心掛けている。	入居時に重度化に関して説明して事業所で出来る事できないことを理解して頂いています。また状態が変わるたびにその都度説明しています。2名の看取り経験もあり、家族から感謝されたそうです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが、少ｸﾞﾙｰﾌﾟで勉強が出来る場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、訓練を行ない、地域の消防団との協力体制ができるよう、関係つくりに努めている。	昼夜想定した訓練を行っています。火災時と水害時の避難場所が違うので実際に、全員避難に要する時間や職員が連絡を受けてから駆け付けるまでの時間も確認し全職員で災害対策に取り組んでいます。	災害対策は常に見直しが必要です。入居者の状態や職員の入れ替わり、環境の変化等に対応して訓練を続けて行くことを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々を人生の先輩として、尊敬の念を持ちながら、自尊心を傷つけない声掛け等の対応、介助・介護対応に心がけている。	名前を呼んでから話す様心掛け馴れ合いにならない様言葉に気を付けています。又他の入居者にも配慮しながら対応する様努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事故につながらない以外の事については、本人の意向に添うよう、傾聴し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事故につながらない以外の事については、本人の意向に添うよう、傾聴し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装・整容等の選択は本人の意向に添って、本人の趣味に合わせた対応で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々の嗜好を伺い、メニューに反映させ、調理・配膳・片付け等にも積極的に参加していただくよう、支援している。	日々の買い物と生協と半々位で、対応しています。買い物に行き入居者が選んだ食材を職員と一緒に調理し食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、チェック表に記入し、トータル的に判断調整を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ご自身で出来る方にはしていただき、介助が必要な方に合わせたケアを行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を用い、一人ひとりのパターンを理解し、トイレへの誘導に反映し、オムツ等の使用を減らすように声掛けし対応している。	日中は一人ひとりのタイミングを見てトイレ誘導を行っています。夜間はゆっくりと休んで貰う様配慮しながら個々に合わせた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の量を把握し、一人ひとりに合った食事提供を実施し、薬に頼らないよう乳製品等の食品摂取による便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の方々を隔日での入浴対応とし、個々の日々のバイタル状況や特変事項の有無がない限り、個々にあった時間帯で入浴していただけるよう支援し、対応している。	夏、冬など気候に合わせ温度や回数を考慮した入浴を心掛けています。便失禁等があった場合はすぐに入浴できるよう支援しています。看護師が月・水・金曜日に勤務しているので状態を相談しながら入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠前薬を処方されている利用者の方々の薬には、頼らずをモットーに、日中での活動やコミュニーケーションによる事で、安眠できる対応を心掛けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には掛かりつけ医の指示の元で、服薬していただくよう支援している。又、症状の変化時には、掛かりつけ医に報告連絡し、指示を仰ぐ体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた、生活環境を整えた上で、本人主導の本で洗濯物たたみ・洗濯干し・調理参加・配膳等をしていただけるよう支援している。又、気分転換を図っていただけるよう、レク等を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望・要望に沿い、散歩・ドライブ・買い物等に出かけるよう支援している。又、本人様を伝える事ができない際はの希望代行し、ご家族へお伝えし、時間を作っていただける範囲内で外出していただくよう支援している。	入居者の欲しいものを買いに行ったり食べたい物を食べに行ったり出来るだけ本人の希望する外出の支援に努めています。また入居者の思いを家族に伝え家族と一緒に外出を行っています。季節ごとに弁当を持って外出しています。	開所から10年が経ち外出が困難になった入居者もあり、少しでも外の空気に触れて貰える様に一人ひとりの状態に合せて1日に一回入居者と窓を開けてゆっくりと過ごす等、入居者の気持に沿った関わりを続けることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向を重視し、金銭等の所持は控えていただいているが、ご家族が持たせたいと思われる方には、最低限の金額を所持していただいている。又、他の場合は事業所が立替し、買い物時に金銭をお貸しし、使用していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話には、ご家族の生活スタイル及びパターンの意向を取り入れ、取っていただくようにし、手紙は常に取っていただくよう手紙等の投函を変わりに事業所が行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者の方々が作成した作品をやレクでの作品を掲示し、安心できるよう努めている。又、外光を取り入れた天窓を使用し程よい明るさを提供しており、全ての電色を白熱色にし安心した空間を提供できるよう心掛けている。	入居者同士お互いが気持ちよく過ごせるようにソファーの位置や角度を工夫しています。季節感を採り入れながら、照明も明る過ぎない様に自然な明るさを保つよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての空間を開放し、玄関にベンチを置き誰もが座り団欒の場を設けている。又、レク等を積極的に行ない利用者の参加していただけるよう声掛け・より添うように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室空間は、使い慣れた物を持ち込んでいただくことを基本とし説明している。又、本人が使いやすいように家具の配置換え等にも対応し、家人の意向も取り入れた居室空間を提供できるよう努めている	居室の部屋の温度管理は職員が行っており共有空間と居室の温度差が出ない様に配慮しています。一人ひとりの状態に合わせてベットを使用する方マットに布団を敷いている方がいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての部屋等に、場所の名前を掲示等をし、利用者の方々に把握していただけるよう、心掛けている。又、声掛けをし、出切る事はご自身で出来るよう見守り対応するよう支援している。		